

第1回

セルフケアをケアするという
ハビトウスについて

講師：丹木博一さん

(上智大学短期大学部英語科教授)

略歴：1991年上智大学大学院哲学研究科哲学専攻博士後期課程単位取得満期退学

主な著書『いのちの生成とケアリング—ケアのケアを考える』ナカニシヤ出版

2016/10/20・『ここに寄り添う手術看護』

共著 医歯薬出版 2014/09・『ヒューマンケアと看護学』共著 ナカニシヤ出版

2013/12/20・『ニヒリズムとの対話』(共

著, 晃洋書房, 2005)・『フッサールを学ぶ人
のために』(共著, 世界思想社, 2000)など。

日時：3月18日(日)14:00～16:30

参加費：1,000円

ケアの営みは、限りあるいのちを生きる私たち人間が、その「弱さ」ゆえに与えられた豊かな可能性です。しかし私たち一人ひとりが、ケアを見つめ、引き受けていかなければ、その豊かさは容易に損なわれ、見失われてしまうでしょう。本年度の講座では、昨年度の「ケアの哲学入門」に引き続き「ケアとは何か」という根本的な問いを大切にしながら、人生の様々な場面に即して、いったいどのような「ケアの姿勢」が私たちの生(いのち=暮らし)をつなぎ、支えていくのかを、様々な角度から一緒に考えてまいります。

第一回目は、ケアが人間のいのちの条件であることの意味を確認した上で、ケアがケアとして成り立つために必要なものは何であるか、具体例に即して、いくつかの提言を行います。弱さや傷つきやすさが互いの交流の場となる不思議や、自己と他者が幾重にも絡み合いながらお互いを触媒とすることによってケアする主体とケアされる主体が立ち上がっていくことへの驚きについて分かち合いたいと思います。キーワードは「セルフケアのケア」「中動態」「ハビトウス」の3つです。(参考文献：丹木博一『いのちの生成とケアリング—ケアのケアを考える』ナカニシヤ出版。なお当日は資料を配布する予定です。)

場所：上智大学 2号館 4F 404教室

(正門から入り、すぐ左側の建物の4F)

東京都千代田区紀尾井町7-1 (JR中央線・東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅麹町口・赤坂口徒歩5分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya主催：ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> 関根 090-9146-6667<http://begleiten.org/>ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest> 入江 ANA71805@nifty.com

共催：上智大学 哲学科